

# 金融に多様な活用領域

NTTデータ経営研究所  
金融コンサルティングユニット

明壁 佑希氏

金融業界を中心に「FinTech（フィンテック）」への注目度が高まっている。フィンテックとは金融（Finance）と技術（Technology）を組み合わせた造語で、IT（情報技術）を駆使した新たな金融サービスを意味する。フィンテックを担う技術の1つとして人工知能（AI）が活用されている。



特に投資領域で目立つ。過去何十年にもわたって蓄積した膨大な市場データをAIに解析・学習させ、株式や原油、穀物などの金融商品を取引している。金融業界は元来、いくつもの情報源からデータを集め、リスク分析を通じてリターンを獲得してきた。大量データの処理に効果を発揮する機械学習などの技術にもとづいたAIとの親和性は高い。

ほかに「スコアリング」「不正検

AIの主な活用領域と内容

投資	過去の市場データを蓄積し、AIに解析・学習させて金融商品を取引
スコアリング	審査対象者のオンライン購買履歴などの情報源をAIが分析し、融資可否を判断
不正検知	過去のデータからAIが一定のパターンを抽出。通常行動と逸脱行動を区別して不正送金などを警告
業務効率化	コールセンター業務でテキストや人間の会話などをAIが分析し、問い合わせに対応した回答を出力

知」「業務効率化」の領域でAIの活用が進んでいる。スコアリングでは審査対象者の交流サイト（SNS）の友人関係、サイト閲覧履歴といった多様な情報を使い、融資の可否を判断する企業が登場している。米国では通常、クレジットカードの利用履歴（クレジットヒストリー）などをベースに融資審査をする。クレジットヒストリーを持たない移民や若年者への融資が可能となる。

不正検知では、AIが過去のデータから一定のパターンを抽出し、通常行動と逸脱行動を区別して不正を

検知する。マネーロンダリングやセキュリティの脅威に対し、金融機関や顧客に警告するサービスが提供されている。業務効率化では日本の金融機関のコールセンターに米IBMの「ワトソン」の導入が進む。自然言語による質問を受けつけ、内容を分析・解釈し、回答を表示するたびに知識を蓄積・学習する。状況判断や応答の改善を目指している。



金融業界はもともと大量のデータを蓄積している。今後はAIを活用していかにデータを効果的に利用するかが重要となる。金融機関が単独でAI研究に投資しようとしても限界がある。近年、問題となっている不正送金の防止などの非競争分野では、複数の金融機関や企業が協力して研究に取り組むことが、金融インフラの発展に寄与するだろう。

あすかべ・ゆうき マネージャー



マネージャー。金融機関の事業戦略策定、チャネル戦略立案などを専門とする。フィンテックを活用した新たな金融サービスの創出に取り組む。